

令和8年度 第1回府中市環境審議会会議録（要旨）

令和8年4月27日（月）

午前9時30分から午前11時30分まで

府中市役所おもや第1特別会議室

■出席委員（12名）

吉田智弘委員（会長）、澤佳成委員、高田秀重委員、市川耕作委員、元山淳一委員、佐々木宏一委員、古後康之委員、浅田多津子委員、藤間利明委員、最首希咲委員、嶋原國夫委員、松壽孝樹委員、

■欠席委員（3名）

井上真紀委員（副会長）、鈴木康子委員、吉武考三郎委員

■事務局

【環境政策課】関田生活環境部環境担当参事、田口課長補佐、鈴木ゼロカーボンシティ推進担当副主幹（兼）環境保全センター担当副主幹、中澤空き地・空き家対策担当副主幹、熊谷環境改善係長、小澤ゼロカーボンシティ推進担当主査、町田自然保護係長、米山、藤井

【産業観光課】時田農政担当主幹

【資源循環推進課】大川課長

【公園緑地課】直井課長、大塚課長補佐

■傍聴者

1名

■議事

1 開 会

2 参事あいさつ

3 自己紹介

4 諮問

5 議題

(1) 第3次府中市環境基本計画の中間見直しについて

6 その他

(1) 令和8年度府中市環境審議会の日程について

7 閉 会

■配布資料

資料 1 府中市環境審議会委員名簿

資料 2 第 3 次府中市環境基本計画の中間見直しについて

資料 3 令和 8 年度府中市環境審議会の日程について

■内容（要約版）

※本議事録は、録音機器の不具合により逐語的な記録ができなかったため、職員のメモ等にもとづき要約して作成したものである。

1 開会

・開会及び議事の進行方法（発言は会長の指名により行うこと等）について事務局より説明

2 参事あいさつ

・今年度より着任した関田環境担当参事より審議会の開催にあたっての挨拶

3 自己紹介

・委員の自己紹介及び事務局・関係各課職員の紹介

4 諮問

・事務局より諮問の趣旨について説明の後、関田参事から会長へ諮問書を伝達

5 報告事項

・公園緑地課より、樹木管理ガイドラインの現状について説明

6 議題

（1）第 3 次府中市環境基本計画の中間見直しについて

・事務局より、資料 2 について説明

・質疑応答

<主な質疑応答>

【委員】

今回の見直しは、項目の追加もあるということか。

【事務局】

項目の追加も必要であれば考える。

【委員】

スライド 1 2 に見直し例があるが、削除前の数値は参考値として記載されていくのか。

【事務局】

表記は継続していきたい。今までの流れから削除は良くないと考えている。

【委員】

スライド 7（2）成果指標の 1 番上の市民割合、目標値を 40%とあるが、総合計画 79 ページには 82%と記載あり。これとの関連は何か。

またスライド9のまちなみが保全されていると感じている市民の割合が60%とあるが、総合計画では見つけられなかった。どこに掲載されているものか。

【事務局】

本日の資料には、前期の総合計画の数値を記載している。今後、後期計画との兼ね合いで数値が修正されているようであれば、対応していく予定である。

【委員】

目標値の中で、いくつか2025年度となっている。後期基本計画と数値が違うというのは、そのところに起因するのでは。

【事務局】

具体的な数値を次回の会議で提示させていただきたいと考えている。

【会長】

目標値は精査されたら2030年度になるのか。

【事務局】

基本は2030年度となる。

【委員】

今回の審議会は欠席の予定であるが、審議してほしい事項がある。どのようにしたら良いか。

【事務局】

今この場でも可能です。

【会長】

次第の「その他」の事項でお願いできればと思う。

【委員】

では、その他の時にお話しします。

【古後委員】

この4年間で温暖化の排出量について大きく変化がある。ここ最近の中東情勢なども影響してくる2030年度に向けた具体的な削減目標について、個人的には、できるだけ直近の影響を盛り込んだ具体的なものを記載した方が良いと考えている。

【鳴原委員】

中間見直しの位置づけとして「計画期間の中間年度における点検・調整」とあるため、2030年以降については触れないという考えで良いのか。例えば、令和7年2月に閣議決定された「地球温暖化対策の計画」によれば、2035年度に60%、2040年度に73%の温室効果ガスを削減するとある。この点については、次期の環境基本計画で議論するのか。

【事務局】

温室効果ガスの削減について、中間見直しについては2030年度までのものと考えていただきたい。2030年度以降については、第4次計画の策定の際に盛り込む予定である。

【委員】

スライド10で大幅な計画見直しではないと記載があるが、前回も進言した水循環基本法について、水道法でも基準が決まった。食品関係でも基準が決まった。今、この範囲がどうなのか議論があるとのことだが、この範囲について意見をもらえれば。

【事務局】

基本計画目標が5つあるのは崩さない考え。今委員がおっしゃった件は基本方針2, 4に関係があると思うが、進捗の管理・評価を目的に、指標として何を用いるかというのが一番重要であると思う。適切な指標があれば用いていくべきであると考えているが、良い指標が作れるかどうか重要だと考えている。

【委員】

水質も土壌も重要と考える。市でできることは少ないと考えているが、市でできることについてはできるだけ取り上げていければ。

【委員】

スライドの10、国や都との関係についてと記載があるが、市の基本方針2に関係してくるが、都はかなり高い目標で改定された（令和2年）。これは、計画期間が2030年度までだが、これと併せていくのか、市の独自として考えていくのか。

【事務局】

2022年12月のCOP15以降の動向が本市の策定タイミング的に盛り込むことが間に合っていない。国家戦略および東京都の地域戦略も参照し、必要なものを盛り込む。成果指標の指定種10種がネイチャーポジティブの実現に向けたモニタリング指標の位置づけにあたり、この点に関して大きな方向性の違いはない。

【会長】

新しい指標を設ける場合、もとなる数値はあるのか。例えば、PFASなどは数値を取っていない。数値がない場合は指標として設定するのは難しいのでは。

【事務局】

委員より、このような内容を進捗管理に加えてはどうかというようなご意見をいただいたうえで、市で保有しているデータから適切な指標がないかを事務局が探し、あれば追加検討のため本審議会にお示しする、というようなイメージを持っている。

【事務局】

水や温室効果ガスの削減量について、国は削減目標46パーセント、市は48パーセントの目標を掲げている。市では、様々なポテンシャルを比較した結果、設定をしている。これからも、国の前提もあるが、必ずしも一致するものではなく、それぞれ検討しながら考えていく。

水についても、現在はまだ知見の積み重ねを行っているところである。市単独でできることが何かあるのかも含めて考えていくようになる。

【委員】

シックスシグマ手法では、データを一定数以上取ったものでなければ数字の信憑性は無

いと言われている。信憑性が損なわれないように注意してほしい。

【委員】

スライド13について、指標の見直しに伴い、具体的な対策等についても見直しをするという認識か。

【事務局】

そのとおり。

【委員】

スライド7、東京都レッドリスト（本土部）2020版掲載種の市内確認種数について、指定種10種は確認できているものだけか。

【事務局】

他にも確認できている中で、生物のカテゴリごとにピックアップした合計の10種。

【委員】

スライド12、意識が向上した割合についてはどのように考えているか。

【事務局】

指標の測り方について、参加者アンケートを考えている。参加した結果、どのような意識変容があったか、純粹に参加人数だけでなく、より踏み込んだ方が良いと考えている。

【委員】

質問事項については、回答が望ましい方向へ誘導されてしまう傾向が見られるため、市にはその点に十分注意していただきたい。

【会長】

毎回同じ参加者か。それとも別の参加者を想定しているのか。

【事務局】

意識変容まで確認ができなければ意味がないと政策部門からの指摘があったため、参加をした結果どうなったのかのアンケートをとるようにした。アンケート対象者については、かんきょう塾はあまり入れ替わりがない。環境まつりや他のイベントについては人が入れ替わっている。環境啓発を行っていく中で、その啓発活動が有効なのか、質がどうなのかを判断していく指標としたい。

【委員】

バイアスが存在することを前提とした調査となっているように感じられるため、実態を適切に把握できているのか懸念がある

【委員】

指標については、数値が右肩上がりになるような方向で作らないといけないように感じる。

【委員】

リピーターの方については、参加回数を取ってみても良いのでは。

【事務局】

適切にデータ集積ができるように考えていきたい。

【委員】

市から委託を受けてイベントの最後にアンケートをとっているが、意識の向上についての質問に対する回答は2択。アンケートの結果は、向上したという結果がほとんど。参加されるような方は、少しでも学べたことがあれば、「向上した」に○をしているのではないか。

【委員】

イベントに参加するような方は、もともとプラス評価に働くのかなと思う。

【委員】

参加者はもともと意識が高いので、意識が高い人に焦点を当てるのか、そうでない人に当てるのか、その点も考えたほうが良い。

【委員】

かんきょう塾などのようなイベントでは高めに出るのでは。環境まつりなど単発のイベントは別にとった方が良いのでは。

また、東京都レッドリストの件については、2025年度までに10種であったのが9種になったと思う。その種が棲息・生育できる環境を保全する方法を検討するなどの取組みにつなげることや、場合によっては指定種の見直しも必要ではないかと思う。

【事務局】

いただいたご意見も踏まえながら検討していく。

7 その他

(1) 令和8年度府中市環境審議会の日程について

・事務局より、次の3点について説明

①今年度の審議会の日程について（資料3）

②委任状及び個人番号の提供書の提出について依頼

③今後の審議会開催通知などは、会長名で各委員に送付予定。また、環境への配慮として、基本的にメールでの通知となる。

(2) 委員より

【委員】

計画の基本方針2に光害対策について追加してほしい。農産物に対する影響も報告されており、生物多様性を維持する面でも光害対策については大変重要であると認識している。「環境省、光害、対策」と検索してもらえれば、環境省のガイドラインの閲覧も可能。指標については、ガイドラインに基づきアセスメントを行うことが必要では。

「府中の環境」についても、光害対策について「対策する」と十数年同じ表記で記載されているが、やっていないのではないか。また、安心・安全という面において交通信号についての記載があるが、安全という面から考えて光害を入れないのはどうなのか。開発もどんどん進んでおり、快適に暮らせる状況にあるのかという点においても重要だと考えている。

環境省ガイドラインの中でも商業施設と住宅の関係などについて記載がある。府中市も

そろそろ実行してほしいと考えている。

【委員】

農業関係で言うと、植物は夜眠り、眠っている間に育つ。ナスも白い部分があるのは、夜育って、まだ光が当たらないからである。街灯の近くの稲は育ちが悪い。

【会長】

やった方が良いというものたくさんあるので、しっかり指標を作れるような根拠についても皆さんから出していただく必要がある。

【委員】

事務局に調べてほしいと思うが、他の市においてはどうか。法令の中で義務付けされているようなものもあるのか。

【委員】

他市の状況と合わせるのではなく、トップランナーでも良いのではないか。

【会長】

一から作るのでは大変。取り上げるべきだという根拠があるのであれば、それを事務局に提供の方が良い。

【委員】

後で事務局にデータを渡すようにする。

【委員】

ネイチャーポジティブ、30 By 30について、2030年を目標に進めている。地域から地球へ広げていくという姿勢が必要なのではないかと考えている。市内では、東京農工大学も自然共生サイトの登録を受けているようである。

【事務局】

それらの要素も考慮しながら進めるよう考えている。

【委員】

光害について、生物多様性で分かりやすいのは蛍の生育状況かと考える。蛍は光害を非常に受けやすい生き物。これも考慮してもらえば良いかもしれない。

7 閉 会